

JAXA の古藤執行役が資料 15-2(宇宙オープンラボ)を5分程で説明した後、16分程の質疑応答があった。(今回の「宇宙オープンラボ」への応募は史上最低の2件で、其の中の1件が採用になった。また、21年度実施案件のうち11件が継続案件として採用された。)(質疑応答では言及しなかったが、21年度の春は4件の応募中1件を採択、秋は5件の応募中2件を採択、前年からの継続は13件であった。従って、16件実施された中から、11件が継続を認められた事になる。)

池上委員長:有難う御座いました。ご質問等御座いますでしょうか。...ア、どうぞ。

野本:あの、ホントに1件しか採択が無いって云うのは今迄始めて位少ないと思うんですネ。それで、広げると云う話ですけれども、矢張り、其方のセンタで広げると行っても限度があると思いますので、先程のあの、講演会400回してると云う事ですから、そう云う処でついでにと言うか、そう云うてもあると思います。何か矢張り新しい事を考えないと、サチュレートしてると云う感じがありますネ。

JAXA 古藤:あの、宜しゅう御座いますか。一つあの、我々もまあ、関西とかですネ、其れから中部地域に、あのまあ、経産省の経産局とかあって、それとあの、商工会議所とかですネ、御座いますので、まあ、法人の中でやっぱり、産学官連携の処が御座います。そう云った処を少し地道にですネ、まあ或る程度拠点みたいな処を一寸ブロック化、まあ日本全国ブロック化して、其の拠点のところにまあ我々が出かけてってですネ、

【議事(2)】平成22年度第1回「宇宙オープンラボ」の選定結果について

まあ其の人達に集まって頂いて、一寸まあ、講演と込みで今仰った様なですネ、そう云った宣伝して行こうかなと。まあ、実はあの来週私、富山に行くんですけど、其処はあの、そう云ったコラボ産学官で云う一般法人で御座いますですネ、其処の会員の方が、支部かあちこちに御座います、一寸そう云う活動はあんまり一寸此れまでやって来なかったもので、そう云ったところに出かけてですネ、少し話をして来ようかなと云う風に思っています。そう云うのを一寸広げて行きたいナと思っています。

野本:それからあの、コスモードを認定する商品とか云うのをやっていますヨネ。其方は一体どうなってるんですか？ 大分増えたんですか？

JAXA 古藤:エエト今、10件ぐらいになって、徐々に...

野本:10件ですか。

JAXA 古藤:あの、此処には載ってませんがあの、宇宙飛行士がステーション出来た様な服、まあ、此の前アンダーウェアを一寸売り出してるんですけども、其処はやっぱりコスモの要するにツキタイ(?)ですネ。あの、マークを付けて売り出ると。

野本:そう云うのにも、まあ、コスモードの方は又、別の関心で見られてらっしゃる方が居ると思うので、そう云う処にも矢張り斯う云う、やっているって云う事を何処か分かる様な形でやっていると、又別の角度で見る人が居るんじゃないかなって云う風にも思いますけど。

JAXA 古藤:はい、解りました。

青江: 此れ、相手方の人にとりましては、経費がどう、あの、半分半分? ...

JAXA 古藤: いえ、半分半分て云う訳では御座いません。あの、例えば今回のヤツはですネ、十分の一位が JAXA ですかネ。

まあ、NHK さんがムニャムニャ。

青江: アー、成程。其れでもそれなりに?

JAXA 古藤: はい。

青江: 逆に 1 割ぐらいで、JAXA が 9 割なんて云うのもあるんですか。

JAXA 古藤: エエト、9 割は無いです。

青江: フーン。

JAXA 古藤: まあ、大体半々ぐらいの方が。

青江: 大体相場ですか。ハーーン。いや、と言いますのはネ、此の、周知の問題ではないんじゃないかと。もう 7 年もたってネ、割合、所謂然るべく一般の人にじゃなくて、中小企業の組合だとか、商工会とか、そう云った処では其れなりにアクセスしてるんですヨネ。ですから其れなりに知ってる訳ですヨネエ。あの所謂此れの相手先になりそうな人は、其れで上がって来ないって云いましょうかネ。云うのは何でなんだろうかなアと。

JAXA 古藤: 一つは一寸まあ、まああの、事業化って云うんでしょか、**ビジネスモデルをキチンとしなさい<sup>1</sup>**と云うのが一寸あり

<sup>1</sup> 必須要件だろう。其れがハードルを高くしているとしても、提案者の自己責任としてどうしても必要である。但し、選定者が同意しなければ落選するので、別のスポンサを探す事になる。

【議事(2)】平成 22 年度第 1 回「宇宙オープンラボ」の選定結果について

まして、其処が結構ハードル高いのかなと...云う感じがして居ります。

青江: アー、そうですか。其れは必要だヨネエ。ええ加減に(重ねて回答したので聞き取れなかった。)

JAXA 古藤: ええ、だから、ええ、其処のその、**どのレベルまでに**するの**か<sup>2</sup>**と云う処は、一寸斯う...する余地はあるかなと。

青江: ウーン。

JAXA 古藤: ただ、儲からないといけないって云うのを言ってしまうもんですから。

青江: 相手方に或る程度の負担をチャンと持たせるって云うのは、此れは必要な事なんだと思うんですけどネ。

JAXA 古藤: ええ、そう云う意味...ええ、先生が仰る通りで、あの、其れ事業化する為にはお金...出す、逆にお金を出すから其処までやらなきゃいけないと云う事を相手方が思う訳ですネ。

青江: ウーン。其れが少し、今のまあ、大体押し並べて 50/50 位の感じだとしたら、其れが、エエト、重過ぎると云う事は無いでしょう。

JAXA 古藤: まあ。

青江: ゼロは困るんだけどネ。

JAXA 古藤: ええ、ええ、ええ、ええ。

青江: ゼロは、此れは、多分ないんだろうと思うんだけど、其処を

<sup>2</sup> 基本的に、自己責任を自覚させる手立てとして、自己負担が存在しているという根本をどう考えているのか。青江委員の指摘の本質を受け入れて居ないように感じられる。

もう少しこう、負担を軽くしてやれば...

JAXA 古藤:相手側の負担を軽くすると云う事ですネ。其れは有り得ると思います。

青江:ウーン。

JAXA 古藤:ですから其の辺を含めて、少し検討したいナって云う事御座います。

青江:と云うのは、せめて(?)そう云う事で...

JAXA 古藤:あとは、後はですネ、あの...まあ、此れ今、共同研究って云う形を申し上げましたけど、基本だと云う事でやって居りましたが、その一、て云う事はうちの共同研究者を置かなきゃいけないので、まあ、そうでなくても良い方法もあるのか<sup>3</sup>ナと。

青江:アア、ハア、ハア。

JAXA 古藤:云うのも一寸あるんですけども。要するに、どっかに共同研究って事は、うちの中にそう云うものをしてる人が居ると云う事が前提になりますので、やっぱり、応募して来る人はそうじゃないところもある訳ですネ。必ずしも JAXA のどっかの研究開発やってる部門じゃない、相当しないもの、あるのかも知れないので、其の辺は一寸考えたいナと思います。

青江:まあ、「利用、利用。」と言ってネ、其れで以て、一寸まあ、

---

<sup>3</sup> 共同研究ではないものがあったとしても良いが、其の製品を JAXA が宇宙用機材として適用しようと思うのであれば、開発に掛る前から共同で開発仕様を検討しなければならない。肝心な処は、宇宙で使用出来る環境耐久性能を持たせる処である。

所謂相手方はかなりフェイラブルな制度を用意をして居って、にも拘らず段々応募研究がズーッと減って来ると云うのは、そもそもビジネスだとか何とか云う話が、大体無い<sup>4</sup>のかナと云う、寂しい気持ちになるじゃないですか。

JAXA 古藤:そうですネエ。

青江:「利用、利用。」なんて言うのはネ、掛け声だけでネ、まあ、大体無いでと思う方が常識だと云う事を言っとるのかも知れない。

JAXA 古藤:あの、此れはあの、一寸知財ライセンスと又違うのですネ、知財の方は逆にうちが持っているものを売ると云う話で、其処は結構ある<sup>5</sup>んですヨネ。結構と言うかまあ、知財の内の 10%位はライセンスを出せる様な状況で、アレなんで、まあ、其れと違う、今度は向うからの提案でやって行こうと云う精度なもんですから、其の辺少しまあ、あの、青江先生の仰るトコシナイ(?)ですけど、少し、もう少しあの、

青江:寂しいネエと。

JAXA 古藤:ええ、あの、掛け声ばっかでもいけないのですネ。

池上委員長:ア、今の、今の、だから、青江さんの延長での議論

---

<sup>4</sup> 極めて重要なチェックである。但し、申請書類の作成が煩わしいとか、ビジネスの成立を事細かに突いて質問されるとか、不要な部分で嫌われているなら是正すれば良い。此の精度を運用する者にとって、応募者の減少は、命令に於ける目標の未達であり、その上司が自身の目標に照らして本グループの目標を書き直す必要がある。担当部署がグダグダ悩む事ではない。

<sup>5</sup> 余計な話ではないか。

なんですけれどネ、海外ではどうなんですか。アメリカはネ、斯う云う様なプロジェクトで、その、ベンチャとか或いは新規事業ってのは、起きてる例が沢山あるんですか。

JAXA 古藤: エエトですネエ、彼らのそこはあの、逆に法律があるんですネ、で、其処で課してる訳ですネ。

池上委員長: いやいや、アメリカの中での話。

JAXA 古藤: はい、中です、はい。何%かは其れに使いなさい<sup>6</sup>と云う様な事で...あと、スピノフに関して言うと、NASA は結構、かなりあの、こんな分厚い冊子も作ったりしてますので、結構あると思います。

池上委員長: て云うと、潜在的には有る<sup>7</sup>筈だと云う事ですか。

JAXA 古藤: ええ、私...

池上委員長: で、やり方が悪い、貴方にとって。

JAXA 古藤: 何となくそんな気がします。

青江: アッハッハ。

JAXA 古藤: あと、もう一つあの...

青江: キョウトス(?)は、やっぱり存在意義が無いのか、

池上委員長: 無いのか、そうなんです。

青江: のかが良く分らん。

---

<sup>6</sup> 古藤執行役がスピノフの話と新発想の宇宙用部品の話と一緒に捉えた話ぶりなので、此のアメリカの法規制が「新発想の宇宙用部品」に限定されている保証が無い。

<sup>7</sup> スピノフは十分に潜在需要がある。そもそも宇宙活動は、其れ迄存在しなかった部品を使用したい事があり、新たな設計要求を作っていると云う一面がある。其れに潜在需要がある時もある。

JAXA 古藤: ですからあの、活動領域はですネ、あの、我々やっぱりあの、東京に居るもんですから、少し地方の方をもう少しプッシュしたら何か出てくるかも...

池上委員長: 僕ネ、目的が良く分かんない訳。何で此れをやるかって事をネ、やっぱり決めて、で、何が障害なのかと、で、其れに対して斯う云うパントウサ(?)探りましょうと云う戦略ですヨネエ。で以て、多分ネ、若し地方の中小企業が考えてるんであれば、経産省の中小企業庁、色々金持ってやってますのでネ、地方の通産局ってのは結構金が無い<sup>8</sup>んですよ、実は。本庁が今ズッと仕切ってる。

JAXA 古藤: アア、はい。

池上委員長: 従って中小企業庁の方と連絡を取りながらやれって言うとかネ、何かその、あの、目標を決めた後のやり口についてはネ、もっとフレキシブルに考えてったら如何ですかネ。

JAXA 古藤: ええ、あの...

池上委員長: 経産省って色々連携はしてる訳?

JAXA 古藤: エエト、経産省じゃなくてあの、やっぱり地方の、どっちかって言えば経産局の方が。

池上委員長: 経産局、金無いんです。

JAXA 古藤: ええ、ですから其処...いや...だ(から?)

---

<sup>8</sup> 視点が違うと思う。概ね 50%の資金を JAXA で準備しているのだから、ビジネスリスクが半減されている。本来ビジネスリスクは自身で負うものなので、十分な援助である。提案が減った原因は、情報か発想の不足であって、資金の不足ではないだろう。

青江:あの、あの、経産局には話はチャンとしての訳です。

JAXA 古藤:ええ、あの、人を逆に紹介して貰ったり...

池上委員長:アア、そう云う事ネ、ええ、ええ。

池上委員長:でも、実はね、中小企業庁も色々其れは努力してる筈ですから。先程、アマセバ(?)だって云う、あの、古藤さんからそう云う様な話がありましたですが。

JAXA 古藤:はい、分かりました。一寸、其の辺、検討します。

池上委員長:此の件、他...

青江:あ、一寸。

池上委員長:ア、どうぞ、どうぞ。

青江:此れとは一寸関係無いんですがネ、あの、前原大臣のあの、有識者懇談会に、その一、出された資料の中に、JAXA はバイドル条項、「JAXA のイタル(?)についてはバイドル条項<sup>9</sup>が適用が適用されてない。」と云う風を書いてある資料が

---

#### <sup>9</sup> 【米国バイドル法】

- ・ 民主党バーチ・バイ上院議員と共和党ロバート・ドール上院議員を中心とする超党派議員が提唱
- ・ 政府資金による研究開発から生じた発明の事業化促進を目的として、1980年に成立
- ・ 政府資金による研究開発から生じた特許権を民間企業・大学等に帰属させる

#### 【日本版バイドル法】

- ・ 米国バイドル法を参考に、政府資金を供与して行う委託研究開発について、技術に関する研究活動の活性化とその成果

【議事(2)】平成22年度第1回「宇宙オープンラボ」の選定結果について

あったんですヨ。間違いですヨネエ。

JAXA 古藤:間違いです。

青江:ですヨネエ。チャンと然るべく、手当はキチンとしてますヨネエ。

JAXA 古藤:ええ、してます。其れは。

青江:ウン、だからそう云うライジン(?)の、そのまあ、重要な会議に間違いの資料がですネ、出された事が実に良くないんで、出した所にはチャンと直せと云う風に行った方が良いでしょう。

JAXA 古藤:分かりました。

池上委員長:エ、豪い...て云う事は、要するに、JAXA が例えば特許等を取った場合に、其の特許で以て JAXA の為のビジネスがやっても出来ると云う事ですか？

JAXA 古藤:出来ます。

池上委員長:そうすると、バイドル...

青江:バイドル条項と云うのは、相手に、委託先にどうぞお使い頂いて結構ですヨと云う、其の事なんですネ。

---

の事業活動における活性化を目的として、日本版バイドルを含む「産業活力再生特別措置法」が1999年10月1日施行(第30条)

- ・ 根拠法が「産業技術力強化法」となり2007年8月6日施行(第19条)
- ・ 「産業技術力強化法」バイドル条項(第19条)を2009年6月22日改正施行

池上委員長: バイドル法ってのは、大学で、国の金で...

青江: 違う違う違う違う。バイドル条項と云う処で、

池上委員長: イチヨウ(?)バイドル法。

青江: そう言っとるのはそう云う意味なんですヨネ。

池上委員長: で、其れ問題無い筈ですヨネ。

JAXA 古藤: ええ、問題無いです。

池上委員長: 問題無い。

青江: だから、JAXA は...しとるんだって...

JAXA 古藤: 分かりました、今仰った事は然るべく、言っておきます。

青江: そう云う風に...

池上委員長: そう云う、バイドル法で、何て言うんですか、自分達が国の金で取ったもので以て、色々其の特許を活用しても良いと云う事になってるんですネ。

JAXA 古藤: そうです。なってます。はい。

青江: にも、そう云うコンキョウタテアキ(?)をしとるにも拘らず、してませんと云う資料がで取るから、そう云う事はキチンと改める様に求めた方が良いでしょうと。「奴ら何を...あのこう、所謂努力をしとるんだと言って怒られてる訳ですからネエ。

池上委員長: でも、其処まで真剣に対応する相手ですかネエ。そう云う事言っちゃいけないのか。

青江: 其れはそうじゃあないですか。大臣の、前原大臣の何か諮問機関か何か、良く私は正確には、法律的には良く知りませんがけれども、そう云う処に出された資料ん中に、そう云う間違いが書かれてあると云うのは、実に良くない事じゃないです

【議事(2)】平成 22 年度第 1 回「宇宙オープンラボ」の選定結果について

かネエ。此の、JAXA がいかんと言って怒られとるマターですからネエ。

池上委員長: はいどうぞ。

森尾: あの、そもそも、此れあの JAXA との連携協力を条件にされたってのは、どう云う経緯(いきさつ)で、どう云う理由で斯うなったんでしたっけ。

JAXA 古藤: オープンラボの。...エエト、一寸私も...

森尾: ちゅうのは、あの、新しい宇宙発ビジネスの創出を目指すと云いながら、一方では JAXA のテリトリの中だけに限定してしまう様な事なるんだと思うんですネ。だから、其れが其れなりのまあ、何か理由があったんではないか...

JAXA 古藤: 元々はまあ一寸、あの、余りヒキエ(?)てないんですけど、**スピンオフ**<sup>10</sup>、あの、要するに JAXA が研究開発で手に入れたもの、其れを広く世の中にやっぱり使いなさいと云う事じゃなかったかと思うんですヨネ。

井上: 寧ろ、最初はあるの、エエト、JAXA 側にもそれなりの目があるものが、メーカーさんと一緒に動く事であって云う様な、其処へ新しいものを入れようって云う。JAXA 側にもアレがあるって

<sup>10</sup> 違うと思う。JAXA の「産業連携センタ」は「宇宙オープンラボ」「知的財産利用プログラム」「あいのり公募衛星」「宇宙ブランド」「施設設備の共用」の 5 つのプログラムを用意している。此れでは「知的財産利用プログラム」を説明している様に聞こえる。JAXA が保有する技術を利用して新しいビジネスを企画するプログラムと、JAXA が使いたいと思っている部品を開発するプログラムが「宇宙オープンラボ」にあった様に記憶している。

云う事が一つはあったんですネ、最初は、少し其れは今やもう少し違う考え方入れてっても良いんだと思います。

池上委員長:今言われたの、技術の部分については JAXA が本来やりたい、例えば蛍光灯の話がありましたヨネ。

JAXA 古藤:アレは、ええ、そうですネ。

池上委員長:そうですヨネ。アレは JAXA としてやって欲しいものを何かククンデ(?)やる。で、此処に書いてあるビジネスと云うのは、違うんでしょ。

JAXA 古藤:ビジネスはスピノフ、まあ、共同研究によって得たものを広く世の中に入れなさいと云う話ですネ。それから後は技術提案て云う、見方って云うのは一寸ありまして、それであるの、JAXA が必要とするもの、世の中にあるものを取り入れて、其れを内に使って行くだろうと。

JAXA 同席者:一寸補足させていただきますと、あの、元々発足の当初、オープンラボと云う事で、通常 JAXA が使う技術ってのは、何時も使いなれたメーカーさんなり、割と限られた中からしか技術を吸い上げてないと云うのがあって、で、其れを一寸門戸を広く開いて、その、元々 JAXA に無い様な技術を広く外部に求めようと云う事で、発足したと云う状況です。其れが技術提案型と言ってる方で、あと、もう一個その、其の技術を使ってスピノフを目指すって云うのが、今、今年なんか採択してる方のビジネス提案型って云う事で、其の二整理で元々行ったと云う事です。

池上委員長:ですから寧ろ ISAS の方はネ、実質は何かワーキングト(?)やってんでしょ? 斯う色々、企業とムニヤムニヤ。

【議事(2)】平成 22 年度第 1 回「宇宙オープンラボ」の選定結果について

井上:まあ、はい。そうですネ。元々 ISAS 近辺から話が始まった様な筈だと記憶してます。

池上委員長:他に何か御座いますでしょうか。...あの、先程の発言として、私会津大に居る時に東北地方ネ、矢張り中小企業で宇宙航空関係やりたいって云うの多いんですよ、そう云う企業ってのは、潜在的には、やりたいと云う人は、やりたいと云う企業は沢山ある様な気がするんだけど、ただ、余裕が無いからネ、彼等は、ホントにオープンラボって形で載って来るかどうかは分からない。

JAXA 古藤:確かに最近の不景気も影響してんのかナって云う気も、一寸してんですけど。応募が少ないって云う事で。

池上委員長:で、後はあの、文科省の方から色々大学に派遣されてるっておかしいけど、ああ云うルートもネ、結構お使いになると良いと思うんです。

JAXA 古藤:はい、分かりました。そう云う風に致します。

池上委員長:ホントの事言うと一番ムニヤムニヤ、で、多分産学連携って考えてますからネ。プラスになるんじゃないかと思うんです。で、シャネ(?)を一寸はってネ、その、やり方悪いんじゃないのって言ったんだけど、あの、其の様なやり方もあるので、ご検討されたら如何でしょうか。

JAXA 古藤:分かりました、有難う御座います。

池上委員長:他に何か御座いますでしょうか。若し無ければ、どうも有難う御座いました。頑張ってください。

JAXA 古藤:有難う御座います。

(次の議題に進んだ。)